

■ 大学院 文学研究科 欧米文化専攻

教育研究上の目的
大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院（以下「本大学院」という。）は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。
大学院学則第6条の2（研究科及び専攻） 修士課程においては、アメリカを含む西欧地域の文化について、思想・文学・言語の各分野における研究を行い、欧米文化の歴史とその現状、文化伝播と受容などを総合的に把握し、欧米文化の共通的特質を分析・解明することを目的とする。博士後期課程においては、修士課程の成果を踏まえてなお一層教育研究を深化させ、高度な専門性を必要とする職業を担う能力をにつかうことを目的とする。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「修士（欧米文化）」の学位を授与します。 1. 欧米文化に関する幅広い視野と識見を持ち、物事を主体的に判断する能力を持っている。 2. 欧米文化に関する知識と語学力とを活用し、専門的な職業人として社会に貢献できる人材である。 3. 欧米文化研究の深化と同時に、自主的に日本文化に対する造詣をも深くし、深く幅広い欧米文化の知識をもとに、日本文化の発展と向上に資する人材となる基礎能力を有している。 4. 欧米文化の研究を通して欧米人を深く理解し、平和に貢献できる見識を持っている。
【博士後期課程】 文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「博士（欧米文化）」の学位を授与します。 1. 欧米文化に精通し、高度な専門的知識を駆使して、独自の視点から専門分野の研究を推進する能力を有している。 2. 日本の文化と歴史にも通曉し、欧米文化を客観的な立場から比較考察できる能力を有している。 3. 欧米文化の研究が自ずと日本文化の発展に寄与し得るだけの質と客観性を持っている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。 （教育内容） 1. 学生達に思想、文学、言語学の各分野に関する専門的知識と幅広い知識を授け、常に知的好奇心を以て研究に取り組む姿勢を涵養しなければならない。そのために多岐にわたる系統的な「講義科目」を配置する。 2. 専門的知識ばかりに偏ることなく、関連分野の広範な知識をも体得して客観的視野を広げ、研究に幅と客観性をもたらすべく他専攻の科目の履修を認める。 3. 修士論文の執筆に向けて研究の仕方の基本を学ぶことができるように、「欧米文化研究方法論Ⅰ」及び「欧米文化研究方法論Ⅱ」を1年次の必修科目として配置する。 4. 学生の研究指導に当たっては、指導教授のほか副指導教授を置くことで、異なった視点からの指導を推進し、学生の研究の視野を広げ豊かにする。 5. 必修と選択の科目の履修以外に、自国の歴史的文化に関する自主的学習を合わせて行うことを推奨し、自己の立脚点を堅固なものとするとして、欧米文化を一層深く探求できる指導体制を取る。 （教育方法） 1. 講義科目では、研究のための基礎的な能力の習得を目的として、高度な専門的知識の伝授を、質疑応答を活発に行うことによって、効率的に遂行する。 2. 演習科目では、それぞれの院生の専門的研究を自主的に遂行していく能力を向上させるため、文献精読と討論を取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、それぞれの分野の研究状況への適用力を持った研究能力を身に付けさせるような、研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
（学修成果の評価） 文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。

愛知大学 3つのポリシー（2026年度以降）

【博士後期課程】 文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 欧米文化関連書学における高度な研究を独自に展開していくための能力を習得するため、専門科目の「欧米文化研究方法論」を配置する。 2. 思想、文学、言語学の各分野において、修士課程での研究の深化と、関連の教養的知識の蓄積を前提にして、さらに高度な専門知識を教授し、きめ細やかな指導の下に論文作成への手引きをする体制を整えることから、必修の専修科目の「特殊研究」4単位及び「研究演習」4単位を配置する。 3. 欧米文化関連諸学の高度な研究を、専門的に、かつ関連諸学科との連携も視野に収める形で遂行するための研究指導を行う。 4. 一見類似したもののなかに相違を、一見遠い関係のものの中に近似性を認知できるような批評精神を、専門分野以外の事柄にも及び広汎な探求を通して養成する。
（教育方法） 1. 講義科目では、修士課程での知識獲得と研究の蓄積を前提にして研究のためのより高次のかつ応用的な知識の習得を目的として、高度な専門的知識の伝授を、質疑応答を活発に行うことによって、効率的に遂行する。 2. 演習科目では、修士課程での知識獲得と研究の蓄積を前提にしてそれぞれの院生の専門の研究をより高次に応用的な形で自主的に遂行していく能力を向上させるため、文献精読と討論を取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、それぞれの分野の現在進行形の研究状況への適用力と高度な応用能力を持った研究能力を身に付けさせるような、研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
（学修成果の評価） 文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。
1. 求める学生像 (1) ヨーロッパとアメリカの文化一般を、思想・文学・言語学の各分野で幅広く研究を行う意思を持つ人。 (2) 欧米の文化の諸相をその歴史を通して相対的に究明し、それを礎にして教育的実践や新たな文化の発展に寄与し得る潜在能力を持つ人。 (3) 学部教育における一般教育と専門的知識を十分備えている人。 (4) 欧米の原典を読むに先立って、相応の外国語能力を持っている人。
2. 入学前までに修得すべき能力 (1) 人文・社会系の学問を学習するために必要な基礎的な知識。 (2) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的な能力。 (3) 自分の意見などを発表するための基礎的な能力。 (4) 他者の意見などを聞き対話するための基礎的な能力。
3. 選抜方法 (1) 一般・外国人留学生入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。 (2) 社会人特別入学試験 口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。
【博士後期課程】 文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。
1. 求める学生像 (1) 欧米の文化一般の幅広い知識を備えていることを前提とし、さらに専門的研究を深めていく強い意思を持っている人。 (2) 客観的な批判と分析に基づいた論理的思考により、研究対象を体系化し得る潜在能力を持っている人。 (3) 指導的立場に立って文化創造をしたり、教育職や研究職に就く硬い意志を持つ人。

愛知大学 3つのポリシー（2026年度以降）

2. 入学前までに修得すべき能力

- (1) 人文・社会系の学問を学習するために必要な基礎的な知識。
- (2) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的な能力。
- (3) 自分の意見などを発表するための基礎的な能力。
- (4) 他者の意見などを聞き対話するための基礎的な能力。

3. 選抜方法

外国語、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。